

令和8年度川崎市子ども・子育て会議 第1回子ども・子育て支援推進部会 摘録

■ 開催日時

令和8年7月13日（月）午後6時00分～午後6時50分

■ 開催場所

来庁（本庁15階こども未来局会議室）及びオンライン会議

■ 出席者

（1）委員

公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長	石井 宏之氏
川崎市民生委員児童委員協議会 常任理事	笠原 好美氏
NPO 法人子育て支えあいネットワーク満 代表理事	河村 麻莉子氏
川崎商工会議所 専務理事	三瓶 清美氏
公募委員	堀 菜摘氏
川崎市青少年指導員連絡協議会 理事	山本 友彦氏
専修大学 名誉教授	吉田 弘道氏

（2）行政所管課・事務局

こども未来局総務部企画課長	平山 雪生
こども未来局総務部企画課担当係長	高瀬 博章
こども未来局総務部企画課職員	山本 達也

■ 配布資料

資料1：「子ども・若者の“声”募集箱」令和7年度実施状況報告について

参考1：川崎市子ども・子育て会議子ども・子育て支援推進部会委員名簿

参考2：川崎市子ども・子育て会議子ども・子育て支援推進部会行政出席者
名簿

参考3：川崎市子ども・子育て会議条例

■ 傍聴者

なし

1 開会

2 議事

※摘録につき「である」調で記載、敬称等省略しています。以下、ポイントを抜粋して
記載。

議事（1）「子ども・若者の“声”募集箱」令和7年度実施状況報告について

○資料1をもとに事務局から説明。

<質疑等>

【河村委員】

受付件数が年々増加しており、子ども・若者の声が大人に届く窓口として認識が広がっていることを評価する。GIGA 端末から投稿できるなど、アクセスしやすい仕組みもよい。一方、中原区からの投稿割合が高い要因として、他区と異なる取組があるのか。効果的な取組があれば他区にも展開し、市全体で幅広く声を把握できるようにしてほしい。また、要望を寄せるだけでなく、まちをよくするために自分ができることや協力できることを尋ねる項目を設けることで、子ども自身が行動につなげられる仕組みにしてはどうか。

【事務局】

中原区からの投稿が多い要因の一つとして、学校の授業等で本事業を積極的に取り上げていただいていることが考えられる。教育委員会事務局と連携し、効果的な取組を他区・他校にも共有していきたい。また、提案型の声を増やす視点は重要である。過去には、学校から二ヶ領用水の清掃活動に市長も参加してほしいとの提案があり、実際に子どもたちと市長と一緒に清掃活動を行った事例もある。子ども自身ができることを考え、行動につなげられるよう、周知方法や入力項目の工夫を検討したい。

【三瓶委員】

月別受付状況を見ると、10月の件数が突出している。特定の事件・事故等を契機に投稿が増えたのか。また、中原区、高津区、川崎区からの投稿が多く、区役所への照会件数にも表れている。子どもが自分の住む地域に関心を持ち、意見を出していることがうかがえるため、他区にも、地域に関する意見を投稿できることを積極的に伝えてはどうか。

【事務局】

10月は、複数の学校において授業等で本事業を取り上げていただいた時期が重なったことが、件数増加の主な要因と認識している。また、今年度は新たに対象となる市立小学校4年生全員にチラシを配布したところ、直後の5月、6月に投稿が増えた。学校での紹介や広報・周知が投稿数に直接影響しているため、効果的な事例を共有し、他区からもより多くの声が届くよう取り組みたい。

【堀委員】

入力フォームは個人情報を入力せずに利用できる一方、厳密には大人も投稿できる仕組みである。内容から子どもの投稿か疑問に感じるものもあるが、投稿者が対象年齢であるかをどのように確認しているのか。また、寄せられた声を受けて実現した取組を事例集のように分かりやすく掲載すると、意見が市政につながったことを子どもが実感できるのではないか。「検討する」「工夫する」といった回答が続くと、意見を出しても変わらないと感じる可能性があるため、成功事例を積極的に示してほしい。

【事務局】

個人情報を入力せず、気軽に投稿できることを重視した制度設計としているため、大人が投稿する可能性を完全には否定できない。内容から大人の投稿と思われるものが含ま

れる場合もあるが、現状では、入力フォームに寄せられた声は原則として全て受け付け、処理している。市政に反映された事例については、二ヶ領用水の清掃活動などをホームページの「ニュース」に掲載している。子ども・若者が、届けた声が市政に反映されたと実感できるよう、広報やフィードバックの方法を引き続き工夫したい。

【笠原委員】

子どもが書いてくれたことについて、意見を聞くだけで何もしないのであれば意味がないと受け止められるおそれがある。例えば、環境美化に関する意見は比較的取組につながやすいものもあると思う。具体的な進め方はすぐには分からないが、子どもがこうに考えていることを伝える機会があるとよい。

【事務局】

寄せられた声は毎月全て市長が確認するとともに、内容に応じて所管局・所管課へ共有し、市の考え方の作成や施策検討の参考としている。今後も各局に確実に伝え、施策の立案・決定に活用されるよう取り組みたい。

【山本委員】

事務局が寄せられた声を各局につなげていることを確認でき、安心した。居住区別の投稿状況には地域差があるため、今後の動向を見ながら、各地域の子どもの声を幅広く把握する工夫が必要である。学校に関する意見は多く、個別性の高い内容もあると思うが、関係部署で適切に対応してほしい。また、公園でボール遊びができないなど、子どもが自由に遊べる場所が少ないとの声が気になった。クラブ等に所属していない子どもも利用できる遊び場について、関係局の取組や利用可能な場所を分かりやすく示してほしい。

【石井部会長】

受付件数が3年間で増加しており、認知度は高まっていると考える。学校でのチラシ配布や授業での活用は、事業を知るきっかけとして有効である。一方、授業で取り上げた学校の投稿だけがが増えて終わることのないよう、その後も継続して利用されているかを分析し、さらなる働きかけを検討する必要がある。また、緊急性の高い声、個別具体的な声、漠然とした要望など、内容に応じたフィードバックには難しさがあるが、投稿した子どもの納得感や満足度を高める視点が重要である。取組開始から3年を経たことを踏まえ、今後も運用を工夫してほしい。

【吉田委員】

内容別の状況を見ると、「先生のこと」に関する声が多い点に関心を持った。子どもは、教員が多忙でゆっくり話せないことや、慕っている教員が異動することについて様々な思いを抱えていると考えられるため、その気持ちに配慮した説明や対応が必要である。また、部活動については、活動を盛んにすることと活動時間・休養日との両立が課題となる。子どもの意見を聞きながら配慮してほしい。このような声を把握できる取組であることを評価する。

【事務局】

「先生のこと」に関する声には、教員の言動等への否定的な内容だけでなく、異動した教員に卒業まで指導してほしかったなど、感謝や信頼を示す肯定的な内容もある。こうした声は可能な限り教員本人にも伝えたいと考えている。部活動については、活動に対する考え方が生徒によって異なる。令和7年度は、教育委員会事務局が各校の代表生徒を募り、部活動の在り方を検討する会議を実施しており、その時期と重なったことも投稿増加の要因と考えられる。寄せられた声も踏まえて方針を検討している。

【石井部会長】

本事業は市役所の各局にまたがり、回答やフィードバックの調整も難しい取組であるが、関係局と十分に連携し、制度の実効性・有効性を高めてほしい。

3 閉会

○事務局あいさつ

以上